

概算数量発注方式設計仕様書

令和 8 年10月 1日

半田市水道事業

使用上の留意事項

本仕様書は、愛知県企業庁工事標準仕様書(水道編)並びに愛知県建設部工事標準仕様書を準拠したうえで、半田市水道事業が概算数量発注方式により発注した工事において、請負者が作成する詳細設計に適用する。

本仕様書は、原則としてのものであり、実状にそぐわない場合は、布設工事監督員等と協議して決める。

※本設計仕様書の中で出てくる管の名称について、略称を以下に示す。

管略称一覧

管名称	略称
ダクタイル鋳鉄管	DCIP
GX形ダクタイル鋳鉄管	GX形
NS形ダクタイル鋳鉄管	NS形
K形ダクタイル鋳鉄管	K形
A形ダクタイル鋳鉄管	A形
T形ダクタイル鋳鉄管	T形
水道配水用ポリエチレン管	HPPE
水道用ポリエチレン二層管	PP
硬質塩化ビニル管	VWP
耐衝撃性硬質塩化ビニル管	HI-VWP
ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管	HIRR-VWP

目次

I	総則	1
	1. 埋設物標準設置基準	1
II	管工事	2
	1. 管種及び口径の決定	2
	2. フランジ接合について	2
	3. 管種の選定基準	2
	4. 管種の規格	3
	5. 使用管口径	5
	6. 切管長	5
	7. 異形管の寸法	6
	8. 仕切弁類	7
	9. 空気弁	9
	10. 消火栓	11
	11. 排水設備	11
	12. サドル分水栓	12
	13. 不断水割丁字管	13
	14. 配水管からの分岐	13
	15. 上越し及び下越し	14
	16. ポリエチレンスリーブ及び防食コア	14
	17. 保温材及び凍結防止カバー	15
	18. 管表示工	15
	19. 仮設配管	15
	20. 給水装置工事	16
III	付帯工事	16
	1. 付帯工	16
IV	仮設工	16
	1. 土留工	16

I 総 則

1. 埋設物標準設置基準

① 埋設物標準設置基準

ア 上水道管の埋設位置

配水管 歩道がある場合は、原則、歩道に埋設する。

歩道がない場合は、道路の西、南側に埋設する。

注) 埋設管の位置は、必要に応じて、道路管理者、布設工事監督員及び監督職員等と協議し決定する。

イ 上水道管の埋設深度

配水管	φ 75mm未満は、原則として0.70m以上とする。 φ100～φ200mmは、原則として0.90m以上とする。 φ250～φ300mmは、原則として1.20m以上とする。 φ350～φ600mmは、原則として1.40m以上とする。
給水管	原則として0.60m以上とする。
仮設配管	原則として0.30mとする。
仮設給水管	原則として0.30～0.10mとする。

※埋設管の深度は、必要に応じて道路管理者、布設工事監督員及び監督職員等と協議して決定する。

Ⅱ 管 工 事

1. 管種及び口径の決定

- ① 管種及び口径は、基本的に発注内容を遵守するものとする。ただし、現場条件や分岐方法、道路条件等により上記によりがたい場合は、布設工事監督員及び監督職員と協議して決定する。
- ② 公道等に配水管を布設する最小口径は、原則として $\phi 75\text{mm}$ 以上とする。ただし、行き止まりの開発道路など、上記によりがたい場合は、布設工事監督員及び監督職員と協議して決定する。

2. フランジ接合について

- ① フランジ形の使用は、原則、禁止とする。ただし、以下の場合はフランジ接合を認めることとする。
 - ア 不断水割T字管、地下式消火栓、空気弁、既設フランジ形ソフトシール弁等と接続する場合。
 - イ 既設管接続部がフランジ形で、既設のフランジ部が撤去できない場合。
- ② 上記ア、イについてのフランジ形式は、RF形－GF形の組み合わせとし、パッキンはガスケット1号とする。なお、絶縁を考慮する場合は、パッキンをガスケット2号とすることができる。

3. 管種の選定基準

管種の選定は、原則として次表のとおりとする。

◇管種選定基準表

条 件		管 種
国道 県道 市道	車道	DCIP $\phi 75\text{mm}$ 以上（配水管） HPPE $\phi 50\text{mm} \sim \phi 100\text{mm}$ （配水管）
	歩道	PP $\phi 50\text{mm}$ 以下（給水管）
仮設配管		PP $\phi 50\text{mm}$ 以下

4. 管種の規格

① ダクタイル鋳鉄管(DCIP)

A) 規格

(ア) 口径及び直管長

- GX形 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 100\text{mm}$ $L=4.00\text{m}$
 $\phi 150\text{mm} \sim \phi 250\text{mm}$ $L=5.00\text{m}$
 $\phi 300\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$ $L=6.00\text{m}$
- K形 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 100\text{mm}$ $L=4.00\text{m}$
 $\phi 150\text{mm} \sim \phi 250\text{mm}$ $L=5.00\text{m}$
 $\phi 300\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$ $L=6.00\text{m}$

(イ) 接合形式及び管厚

- GX形 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 450\text{mm}$ (S種管又は1種管)
- GX形 $\phi 500\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$ (S種管)
- K形 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$ (3種管又は1種管)
- 直管で使用する場合は、肉薄管を使用する。GX形はS種管、K形は3種管を使用する。
- 切管で使用する場合は、K形及びGX形($75\text{mm} \sim \phi 450\text{mm}$)は1種管、GX形($500\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$)はS種管を使用する。
- その他の継手は、管厚計算「日本水道協会規格書 水道用ダクタイル鋳鉄管(JWWA G 113・114 資料)」により決定する。

B) 塗装仕様について

- 外面塗装は、JWWA、JDDPA規格による。
- 内面塗装は、エポキシ樹脂粉体塗装とする。

C) 接合形式について

- GX形継手の耐震継手を使用する。ただし、既設管路との接続や現場条件などでやむを得ない場合は、K形継手を使用できるものとし、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。
- GX形継手の直管受口に切管を接合する場合、P-Linkは使用せず従来の方法により溝を切って挿し口リングを使用すること。ただし、布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ることにより使用は可とする。
- フランジ継手は、原則として使用しない。ただし、不断水割T字管、地下式消火栓、空気弁、既設管接続等の場合のみフランジ継手を使用できるものとし、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。
- フランジ形式は、RF形－GF形の組合せとし、パッキンはガスケット1号とする。なお、絶縁を考慮する場合は、パッキンをガスケット2号とすることができる。

D) ボルト・ナットについて

- GX形及びフランジ形のボルト・ナットは、SUS304を使用する。

- K形のボルト・ナットは、フッ素合金ボルト・ナットを使用する。

E) 継ぎ輪を固定長(一体化長さ)内で使用する場合の押輪について

- GX形ダクティル鉄管の場合は、GX形継ぎ輪用特殊押輪を使用する。
- 固定長(一体化長さ)の考え方については、「GX形ダクティル鉄管管路の設計(JDPA T 57)一体化長さ」による。

② 水道配水用ポリエチレン管(HPPE)

A) 規格

(ア) 口径及び直管長

- HPPE $\phi 50\text{mm} \sim \phi 100\text{mm}$ L=5.00m

B) 接合形式

- EF継手を使用し、受口付直管、受口付異形管を標準とする。
- メカニカル継手は、湧水等のある場合、既設接続で完全に止水できない場合に使用できるものとし、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。
- フランジ継手は、原則として使用しない。ただし、不断水割T字管、地下式消火栓、空気弁、既設管接続等の場合のみフランジ継手を使用できるものとし、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。
- フランジ形式は、RF形ーGF形の組合せとし、パッキンはガスケット1号とする。なお、絶縁を考慮する場合は、パッキンをガスケット2号とすることができる。

C) ボルト・ナットについて

- フランジ接手で使用するボルト・ナットは、SUS304を使用する。

③ 水道用ポリエチレン二層管(PP)

A) 規格

(ア) 口径及び直管長(一巻)

- $\phi 13\text{mm} \sim \phi 20\text{mm}$ L=120.00m
- $\phi 25\text{mm} \sim \phi 30\text{mm}$ L= 90.00m
- $\phi 40\text{mm}$ L= 60.00m
- $\phi 50\text{mm}$ L= 40.00m

(イ) 管種

- 軟質1種とする。

B) 接合形式

- $\phi 13\text{mm} \sim \phi 25\text{mm}$ については、水道用ポリエチレン管金属継手(コア一体型)を使用する。
- $\phi 30\text{mm}$ 以上については、水道用ポリエチレン管金属継手(協会型)を使用する。

5. 使用管口径

① 配水管に使用する管口径は、以下のとおりとする。

A) ダクタイル鋳鉄管(DCIP)

- $\phi 75\text{mm}$ 、 $\phi 100\text{mm}$ 、 $\phi 150\text{mm}$ 、 $\phi 200\text{mm}$ 、 $\phi 250\text{mm}$ 、 $\phi 300\text{mm}$ 、 $\phi 350\text{mm}$ 、 $\phi 400\text{mm}$ 、 $\phi 450\text{mm}$ 、 $\phi 500\text{mm}$ 、 $\phi 600\text{mm}$

B) 水道配水用ポリエチレン管(HPPE)

- $\phi 50\text{mm}$ 、 $\phi 75\text{mm}$ 、 $\phi 100\text{mm}$

② 給水管に使用する管口径は、以下のとおりとする。

A) ダクタイル鋳鉄管(DCIP)

- $\phi 75\text{mm}$ 、 $\phi 100\text{mm}$ 、 $\phi 150\text{mm}$

B) 水道給水用ポリエチレン管(HPPE)

- $\phi 50\text{mm}$ 、 $\phi 75\text{mm}$ 、 $\phi 100\text{mm}$

C) 水道用ポリエチレン二層管(PP)

- $\phi 13\text{mm}$ 、 $\phi 20\text{mm}$ 、 $\phi 25\text{mm}$ 、 $\phi 30\text{mm}$ 、 $\phi 40\text{mm}$ 、 $\phi 50\text{mm}$

6. 切管長

① 切管の最大長さは、以下のとおりとする。

ダクタイル鋳鉄管(GX形、K形)

口径	甲切管	乙切管
75mm～250mm	直管の有効長－0.20m	直管の有効長－0.50m
300mm～600mm	直管の有効長－0.20m	直管の有効長－1.00m

② 切管の最小長さは、以下のとおりとする。

A) ダクタイル鋳鉄管

- GX形、K形は、概ね1.00m以上とする。
- 切管や接合、解体作業等により、やむを得ず切管長が1.00mを確保できない場合は、別紙の「ダクタイル鋳鉄管切管最小寸法一覧表」のとおりとする。この最小長さを使用する場合は、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。

B) 水道配水用ポリエチレン管

- 水道配水用ポリエチレン管は、別紙の「水道配水ポリエチレン管切管最小寸法一覧表」のとおりとする。この最小長さを使用する場合は、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。

7. 異形管の寸法

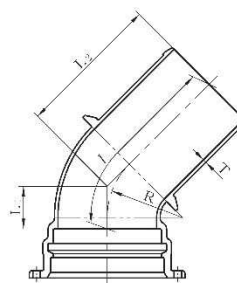
- ① 異形管の設計寸法の単位はmとし、JWWA、JDPA又はメーカー規格の有効長の小数第3位を四捨五入する。

(例)GX 形曲管 45° φ400 の場合

L₁ 0.175m→0.18m

L₂ 0.480m→0.48m

計(L₁+L₂) 0.66m



- ② ダクトイル鋳鉄管、水道配水用ポリエチレン管の設計寸法は、別紙「材料寸法表」のとおりとする。
- ③ 不断水割T字管の設計寸法については、使用する製品の寸法とする。
- ④ 各材料の設計寸法は、m単位とし、少数第3位を四捨五入する。

8. 仕切弁類

① 規格

原則として次表のとおりとする。

◇ 仕切弁標準規格表

口径	名称	規格	使用圧力	材質	備考
50mm～100mm	PE挿し口付きソフトシール弁	PTC B 22	2 種 0.75MPa	FCD	
75mm～300mm	GX形ソフトシール弁	JWWA B 120	2 種 0.75MPa	FCD	
400mm以上	GX形バタフライ弁 センターキャップ式	JWWA B 138準拠	2 種 0.75MPa	FCD	
50mm～350mm	ソフトシール弁	JWWA B 120	2 種 0.75MPa	FCD	
30mm、40mm	砲金製仕切弁		2 種 0.75MPa	CAC	

備考1. バタフライ弁及びソフトシール弁は、内外面エポキシ樹脂粉体塗装とする。

2. 仕切弁は、内面エポキシ樹脂粉体塗装とする。

3. 管路に設置するバタフライ弁(センターキャップ式)は、キャップ上端がGLからの

離隔0.50m程度になるようスタンドパイプで調整する。

- ② ダクタイル鋳鉄管のソフトシール弁やバタフライ弁等の仕切弁は、耐震継手の両受式、受挿式とする。

③ 開閉方向

原則として、次表のとおりとする。

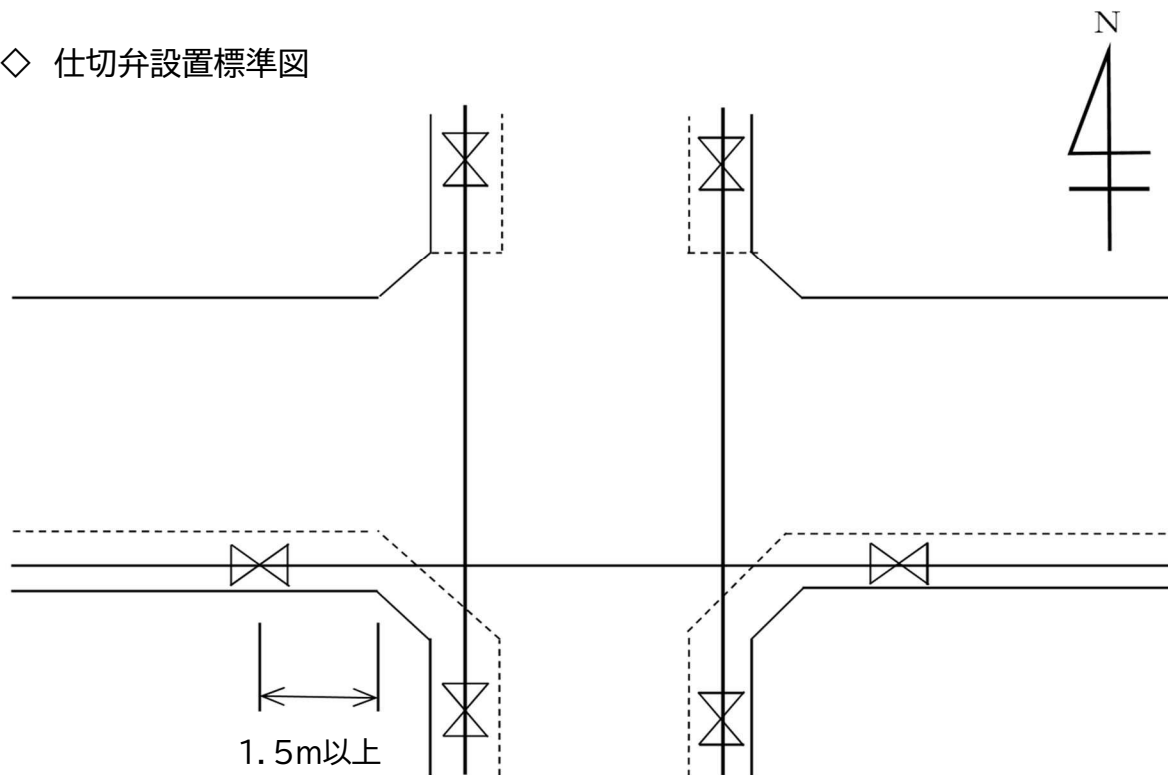
◇ 仕切弁等開閉方向表

仕切弁等の用途	開閉方向	管内区域
配水管のバタフライ弁、ソフトシール弁、砲金製仕切弁等	左閉	全域
消火栓、空気弁及び副弁	右閉	全域

④ 設置位置

- 少数の仕切弁操作によって断水区域が狭くなるような箇所に設置する。
- 分岐した管には、必ず設置する。
- 排水弁は必要に応じて設置する。排水弁を設置する場合、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。
- 重要な水管橋や軌道横断、交通量の多い国、県道等の横断部及び配水区の異なる配水管の連絡部等に設置する。
- 地中埋設の仕切弁は、必ず仕切弁室及び筐を設置する。
- 仕切弁の標準的な設置箇所は、下図のとおりとする。
 - 交差点内には、操作及び維持管理上により、原則として仕切弁は設置しない。
 - 交差点の隅切りから1.5m以上後退させて設置する。

◇ 仕切弁設置標準図



⑤ 仕切弁の設計寸法

- 仕切弁の設計寸法の単位はmとし、JWWA、JDPA又はメーカー規格の有効長、面間寸法(フランジ形の場合)の小数第3位を四捨五入する。

9. 空気弁

① 規格

◇ 空気弁標準規格表

名称	口径	規格	使用水圧	材質
急速空気弁(ねじ込み形)	25mm	JWWA B 137 準拠	2 種 0.75MPa	SCS
急速空気弁(フランジ形)	25mm 75mm	JWWA B 137 準拠	2 種 0.75MPa	SCS

① 接合

フランジ接合は、原則としてRF形－GF形の組合せとする。

② 設置基準

- 空気弁は、管路の凸部及び管路の最高地点に設置するものとする。
- 口径200mm以上の配水管に空気弁を設置する場合は、周辺の地形や配管状況を確認するとともに、空気弁の口径については、「空気弁選定基準表」に基づき、設置するものとする。
- 口径200mm未満の配水管において周辺の地形や配管状況から空気弁が必要と判断した場合は、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること
- 地中埋設の空気弁には必ず空気弁室及び筐を設置する。
- 空気弁の設置高は、GLから空気弁上端までの離隔が15cm～25cmとする。
- 空気弁の材質は、ステンレス製とする。
- 空気弁には必ず補修用の副弁(ステンレス製)を設置する。
- 短管は内面エポキシ粉体塗装、副弁はボール型とする。
- 空気弁の寸法は、各メーカーで異なるため、フランジ単管で設置高さを調整する。組み合わせおよびフランジ補強金具の要否については、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。

③ 選定基準

◇ 空気弁選定基準表

配水管の口径	急速空気弁
150mm	25 mm
200mm～600mm	75 mm

10. 消火栓

① 規格

◇ 消火栓標準規格表

名称	口径	規格	使用圧力	材質	備考
地下式単口消火栓	75mm	JWWA B 103 準拠	0.75MPa	SCS	口金口径65 JIS B 9911
地下式双口消火栓	100mm	JWWA B 103 準拠	0.75MPa	SCS	

② 接合

フランジ接合は、原則としてRF形－GF形の組合せとする。

③ 設置基準

- 道路の交差点、分岐点付近等の消防活動に便利な場所に設置する。設置位置については、布設工事監督員、監督職員等と協議し承認を得ること。
- 地下式消火栓は、必ず消火栓室を設置する。
- 地下式消火栓の設置高は、GLから閉止時に上端となる箇所までの離隔が15cm～25cmとなるよう設置する。
- 消火栓の操作が、スムーズにできるような場所、高さ等を確保する。
- 消火栓の材質は、ステンレス製とする。
- 消火栓には、必ず補修用の副弁(ステンレス製)を設置する。
- 短管は内面エポキシ粉体塗装、副弁はボール型とする。なお、フランジ短管を用いる場合、フランジ補強金具の要否については、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議し承認を得ること。

④ 選定基準

◇ 消火栓の選定基準表

名 称	配水管口径	放水能力
単口・双口消火栓	φ150 mm以上	1栓につき1.0m ³ /分

※消火栓を設置する管については、解析及び実測により、消火栓の取水可能水量が毎分1立方メートル以上であると認められる場合は、φ75 mmおよびφ100 mmの管についても設置を許可する。

11. 排水設備

① 設置基準

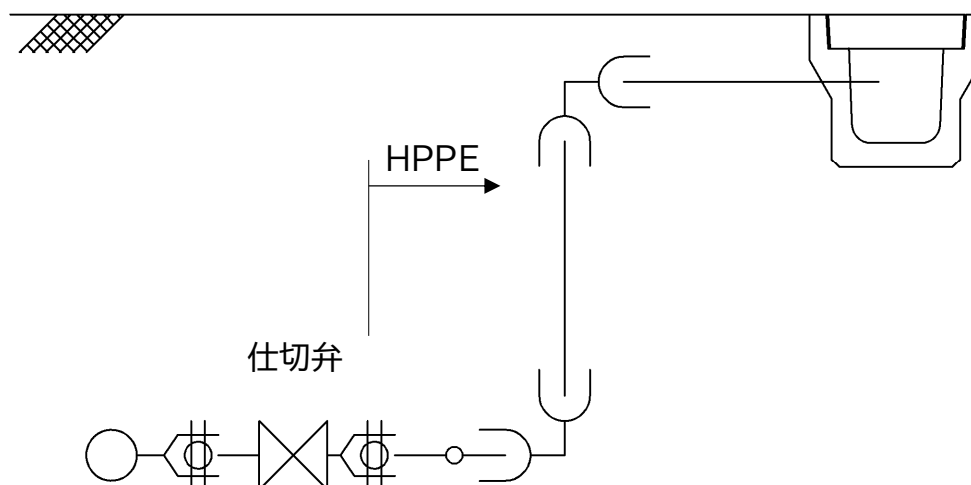
- 管の清掃、停滞水の排除及びその他管内水の排出のため、管路の低所及び管末に排水設備を設置する。
 - 本管が $\phi 200\text{mm}$ 以上の場合は、原則として排水T字管を使用する。
 - 本管が $\phi 150\text{mm}$ 以下の場合は、原則としてT字管又はチーズを使用する。
- 分岐管の口径は、「排水弁選定基準表」のとおりとする。ただし、事前に放流先の条件を確認すること。
- 排水管が $\phi 100\text{mm}$ 以上の場合には、必要に応じて排水枳を設置する。
- 排水口は、必ず放流先の高水位より高く設置する。
- 排水弁は、原則としてフランジレスとし、できる限り本管の近くに設置する。
- 排水管の管種については、仕切弁までは本管と同一管種とし、仕切弁の2次側は水道配水用ポリエチレン管とする。

② 選定基準

◇ 排水弁選定基準表

配水管口径	分岐管	
	管 種	口 径
200mm以上	排水T字管	本管の1／2～1／4 かつ φ50mm以上
150mm	・ ダクタイル鋳鉄管の場合 → 二受T字管 ・ 水道配水用ポリエチレン管の場合 → チーズ	
100mm		
75mm以下		本管と同口径以下

◇ 排水口の設置例



12. サドル付分水栓

① ダクタイル鋳鉄管、硬質塩化ビニル管、硬質塩化ビニルライニング鋼管、水道用ポリエチレン二層管の場合

A) 分岐口径が $\phi 13\text{mm} \sim \phi 25\text{mm}$ の場合

- サドル付分水栓(ポリ直結ソケット一体型)を使用する。
- 分水栓にキャップする場合は、サドル付分水栓用キャップ一体型を使用する。

B) 分岐口径が $\phi 30\text{mm} \sim \phi 50\text{mm}$ の場合

- サドル付分水栓(JWWA準拠型)を使用する。
- 分水栓にキャップする場合は、サドル付分水栓用キャップ旧型を使用する。
- ダクタイル鋳鉄管等の場合は、防食コアを施工する。

② 水道配水用ポリエチレン管の場合

- サドル付分水栓(鋳鉄製)を使用する。分水栓にキャップする場合は、サドル付分水栓用キャップ旧型を使用する。

13. 不断水割T字管

① 不断水割T字管の使い分けについて

A) 既設本管がNS、GX形等の耐震管の場合は次の順番で選定する。

I. 耐震性能を有している不断水割T字管

- 制水弁付不断水割T字管(耐震型)
- 制水弁付不断水割T字管(耐震可とう型)

II. 免震性能を有している不断水割T字管(上記 I に該当しない口径に採用する)

- 制水弁付不断水割T字管(免震可とう型)

III. 上記以外の不断水割T字管(上記 I、II に該当しない口径に採用する)

- 制水弁付不断水割T字管(V型)
- F型不断水割T字管

B) 承認している不断水割T字管は、以下のとおりである。

- 制水弁付不断水割T字管[耐震型(NS形受口)]
- 制水弁付不断水割T字管(V型)
- 制水弁付不断水割T字管[耐震可とう型(NS形挿)]
- F型不断水割T字管

② フランジ接合部について

不断水割T字管の施工において、止むをえずフランジを用いる場合は、フランジ補強金具により、補強を行う。

コスモ工機(株)	大成機工(株)
	

※フランジ補強金具の一例

14. 配水管からの分岐

① 設置基準

- $\phi 300\text{mm}$ 以上の配水本管からの給水分岐は原則として禁止する。
- $\phi 300\text{mm}$ 以上の配水本管から給水を分岐する場合は、 $\phi 100\text{mm}$ 以上の耐震性能を有した不断水分岐又は切取り分岐とし、分岐箇所には仕切弁を設置する。その場合、配水管を布設してから給水分岐を行うこと。
- 配水本管から分岐して配管する場合は、計画した配水管より1ランク上の口径で分岐し、仕切弁を設置した後に計画した配水管の口径にすること。
- 配水管を布設する場合の分岐は、原則としてT字管とする。ただし、既設管からの分岐で断水が困難な場合又は断水が広範囲な場合は、耐震性能を有した不断水割T字管による分岐とすることができる。
- 配水管から分岐して配管する場合は、原則として仕切弁までは同一管種とする。

15. 上越し及び下越し

① 上越しをする場合

- 上越しの土被りが60cm以上確保できない場合は、コンクリートで巻立等を行う。

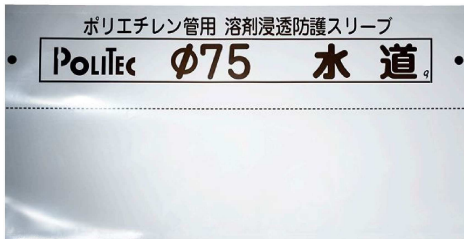
② 下越しをする場合

- 下越しをする場合、構造物等の基礎から原則として30cm以上の離隔を確保する。

16. ポリエチレンスリーブ及び防食コア

① ポリエチレンスリーブ

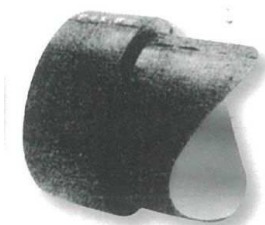
- ダクタイル鋳鉄管および水道配水用ポリエチレン管の管路、不断水割T字管、不断水仕切弁(ストッパーバルブ)、クサビ型特殊押輪又は特殊割押輪等の設置箇所、サドル付分水栓及び分水栓用キャップなど、土壤に接触する部分は、すべてポリエチレンスリーブまたは防食フィルムで施工する。また、ダクタイル鋳鉄管に使用する場合、粉体塗装管と表示のある製品を使用する。

ダクタイル鋳鉄管	水道配水用ポリエチレン管
	

② 防食コア

- ダクタイル鋳鉄管管路でのサドル付分水栓による分土工には、防食コア(密着コア)を施工する。
- ダクタイル鋳鉄管管路に施工する不断水割T字管の内、本管口径 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 600\text{mm}$ の分岐側口径 $\phi 75\text{mm} \sim \phi 150\text{mm}$ については、穿孔口にサビの抑制、通水口径の確保を図るために防食コアを施工する。

◇ 承認している防食コア

コスモ工機(株)	大成機工(株)
ステンレス製密着コア (CORE-MGS): $\phi 75 \sim \phi 150$ ※鋼管兼用	防食コア(SUS316): $\phi 75 \sim \phi 150$ ※鋼管兼用
	

17. 保温材及び凍結防止カバー

① 保温材

- 仮設配管、露出配管等で冬期に凍結のおそれがある場合は、保温材を施工する。

② 凍結防止カバー

- 水管橋、橋梁添架等の露出部に空気弁を設置する場合は、必ず凍結防止カバーを取付ける。ただし、凍結防止装置を付加した空気弁はこの限りではない。

18. 管表示工

- 公道等に埋設する配、給水管は、中間テープ及び貼付テープを施工する。
- 中間テープは、配水管、給水管ともに管上30cmとする。

※ 道路法施行令第12条第2項ハにおいて、埋設管には当該占用物件の名称、管理者名、埋設した年の表示が義務づけられているため、全路線に施工する。また、厚生省課長通知(昭和46年6月4日)により推進工法の場合は、テープに代わり青色ペイントを天端に塗布することとされているためこれを施工する。

19. 仮設配管

- 使用材料は新品でなくてもよいが、漏水の恐れがないもの及び布設工事監督員及び監督職員の承認を得たものを使用する。

20. 給水装置工事

- 給水装置工事設計・施行基準により施工する。ただし、当該基準によりがたい場合は、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議して決定する。

Ⅲ 付 帯 工 事

1. 付帯工

① U字溝、歩車道境界ブロック、エプロン等の取扱い

- 原則、原形復旧とする。ただし、これによりがたい場合は、事前に布設工事監督員及び監督職員と協議して決定する。

Ⅳ 仮 設 工

1. 土留工

① 必要性

- 掘削が浅く、土質が良好で崩壊のおそれのないところ又は付近に建造物がないところは、土質条件等に応じた勾配で素掘としてもよいが、土質が悪いところ、湧水の多いところ、交通車両の多い道路及び付近に建造物のある場合には、矢板工を施工し土砂の崩壊を防止する。
- 土留工の設計施工にあたっては、令和元年9月2日付国土交通省告示第496号「建設工事公衆災害防止対策要綱」を熟知すること。
 - 直掘りの場合で掘削の深さが、1.5mを超える場合には、土留工を設置する。
 - 地盤等が軟弱で土砂が崩壊する恐れがあるところには、土留工を設置する。

② 土質調査

- 土留工の設計に当たっては、原則として土質調査を行うが、付近の工事現場の調査資料等から判定できるものは適用外とする。

③ 工法選定

- 土質、湧水、掘削深さ、交通車両、騒音、振動、埋設物、隣接家屋等の条件を考慮し選定する。